

苗場山山行報告



【山行日】2017年8月27(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所 P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 3,000円

【メンバー】CL:鈴木、稲村、岩淵、島田、関、津佐、藤原、松館

【コースタイム】岩舟支所 P4:00=小赤沢登山口

P7:00/7:15 ~ 坪場 9:20/9:30 ~ 山頂小屋

10:20/10:40~苗場山 10:45~湿原 2068m 地点

11:15~ベンチ 11:30/12:15~坪場 12:40~

小赤沢登山口 P14:45/15:00=岩舟支所 P18:45

草紅葉の苗場山は何回か訪れているが、夏の苗場山はまだ見たことが無かった。夏場は暑いので、どうしても高い山を選んでしまう。去年、越後駒ヶ岳に同じ時季登ったが、下山時暑さでバテて大変な思いをさせられた。今日は久しぶりに快晴の予報で、暑さを心配したが大陸の高気圧に覆われそれほど暑さは感じなかった。予定より少し遅れて小赤沢登山口 P に着くと、すでに30台以上の車が止まっていた。我々も準備を整え、トイレを済ませストレッチを行い出発する。登山ポストに山行計画書を投函し、ブナやトチの広葉樹林帯の道を登って行く。木の根が露出した歩きづらい道は、昨夜の雨で濡れて滑りやすく慎重に歩いて行く。木の根の間からキノコが顔を出し、よく見るとチタケなのでありがたくゲットする。アスナロの大木の間を登ると、傾斜が緩くなり四合目に着く。



ここから六合目までは、ツガやオオシラビソの針葉樹林帯の薄暗い登山道を登って行く。登山道はぬかるんで、輪切りにした切株を敷いた木道を歩くようになる。六合目で休憩し、グレープフルーツや菓子を食べて小休止する。六合目からは岩交じりの急登になり、35名のツアーパーティーが降り



て来て、道を譲り合いながら登って行く。

七合目からはクサリ場が連続し、急な岩場をクサリを頼りに登るようになる。岩と木の根は濡れて滑りやすく、靴に付いた泥でさらに滑りやすい。クサリ場を5、6箇所登り、最後の急な岩場をクサリで登り切ると傾斜が緩くなり、開けた湿原の坪場に出る。

坪場からは明るい湿原が広がり、休憩所で景色を楽しみながらトマトやゼリーをいただく。

ここからは湿原の木道を緩やかに登って行き、

やがてオオシラビソの樹林帯に入ると、岩と倒木のぬかるんだ道で滑りやすい。樹林帯を抜けると広々とした湿原に出て、ここから苗場山頂まで広大な湿原の木道を歩くようになる。湿原からの景色は素晴らしく、「ウワ～～綺麗、来て良かった～」と皆感動していた。2000mを越える山上に、



これほど広大な高層湿原が広がる山は苗場山をおいて他にないと思う。山頂に行く前にトイレに寄りたいたいと言うので、苗場山自然交流センターに寄りトイレを済ませる。ここから灌木の間を100m歩くと苗場山山頂に着く。山頂は灌木に囲まれ眺望は無いが、三角点と苗場山山頂の大きな標柱があり、全員で記念写真を撮る。写真を撮ったら自然交流センターの前を通り、すぐ下の湿

原の広い休憩所まで降りる。ここから赤湯方面への木道を進み、苗場山のたおやかな湿原をのんびりと歩き堪能する。この木道はほとんど来人が無く、静かな苗場山の湿原を楽しめる場所だ。キンコウカやオヤマノリンドウ等の花を楽しみながら、のんびりと雲上の楽園を満喫し、ナシを食べたら休憩所に戻る。休憩所では大勢の登山者がランチを楽しんでいた。我々も休憩所の一角に陣取り、味噌ラーメンを作り始める。モヤシとキャベツ、ネギと、野菜がたっぷり入った味噌ラーメンはとても美味しかった。ランチが済み、下山しようとしたらトイレに寄りたいたいの声が…。



トイレが済むのを待ち、下山開始する。

下山は来た道に戻る。六合目までは滑りやすい岩場を、クサリを頼りに降り難儀したが、六合目からは少し乾いて歩き易くなっていた。

小赤沢登山口Pに戻ると、あれだけ止まっていた車はほとんど無かった。靴を履き替え、トイレを済ませたら帰路につく。塩沢石打IC手前のドライブインでお土産を買い、さらに赤城高原SAで買い物をし、無事岩舟支所に帰着した。

